

第4学年音楽科学習指導案

日 時 2022年8月30日(火)
 場 所 音楽室
 児 童 北広島市立北の台小学校
 4年1組33名
 指導者 大島 祐子

1. 題材名 曲に合った歌い方

2. 題材の目標

- 曲想と旋律など音楽の候とのかかわり、曲想と歌詞の内容との関わりに気づくとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸や発音に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身につける。
- 旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出す良さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持つ。
- 曲想を生かして表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、日本のうたに親しむ。

3. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と旋律など音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の内容との関わりについて気付いている。 ・思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸や発音に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身につけている。 	旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	曲想を生かして表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・共働的に学習活動に取り組もうとしている。

4. 指導計画と評価計画（4時間扱い）

	指導内容	観点別具体的評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	○「とんび」の旋律を歌詞で歌う <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、大まかに曲の感じを捉える。 ・歌詞を読み内容を理解して歌う ○旋律の流れに合う歌い方を考える <ul style="list-style-type: none"> ・階名唱して音を確認する ・音の高さに合わせて手を動かしながら歌い、旋律の流れ、旋律と歌詞との関わりについて、気づいたことを交流する。 ・旋律の上行、下行に合わせてクレッシェンド、デクレッシェン 	とんびの曲想と旋律など音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の内容とのかかわりに気づいている。		

	ドがついていることに気づき、生かして歌ってみる。			
2	<p>○「ゆかいに歩けば」の主旋律（上声部）を歌詞で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、大まかに曲の感じを捉える。 ・歌詞を読み、内容を理解して歌う。 <p>○下声部を歌詞で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「イ」の部分の下声部の動きについて、楽譜を見て確認する。 ・音を確認しながら歌い、音程が不確かなところは部分的に取り出して練習する。 ・下声部の役割について考えてみる 	思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身につけている。		
3 (本時)	<p>○「ゆかいに歩けば」の主旋律の特徴に合う歌い方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の感じが変わるところを探す ・スタッカートがついていることに気づき、スタッカートの意味を確認して歌う。 ・おなかを使って歌う歌い方を知る。 ・イの部分で少しずつ音が高くなっていくところを取り出し、ふさわしい歌い方を探しながら歌う。 ・ 		ゆかいに歩けばの旋律などを聴き取り、その働きが生み出す良さを感じ取りながら聞き取ったと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	
4	<p>○「ゆかいに歩けば」の二部合唱に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いに聞き合って歌う ・スタッカートの箇所の発音や発声の仕方や長い音符を響かせて歌うなど、歌い方をさらに考える。 <p>○「とんび」の旋律をふさわしい歌い方で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3段目の鳴き声の部分の旋律について気づいたことを出し合う <p>○「ゆかいに歩けば」と「とんび」を歌い比べ、気づいたことを交流する。</p>			それぞれの曲の曲想を生かして表現することに興味を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に学習活動に取り組もうとしている。

5. 教材名 「ゆかいに歩けば」

6. 教材観

この題材では各曲の旋律の流れに合った歌い方や、曲想と歌詞の内容とのかかわりを考えて歌唱表現することをねらいとしている。旋律の流れや上行下行、弾む感じやなめらかな感じなどの曲想に合った歌い方を探したり、旋律の反復を生かした強弱など歌詞の内容ともかかわらせながら、表現を工夫していく。

また、スタッカート、クレッシェンド、デクレッシェンドが新出事項として出てくる。歌唱表現の活動の中で、音楽における働きと関わらせてその意味や効果を理解させたい。歌うときには呼吸や発音の仕方に気をつけつつ、「こんな風に歌いたい」など子どもの意図を引き出していけるよう指導したい。

7. 共通事項との関わり

本教材では共通事項ア「旋律、音色」について重点的に取り扱う

8. 児童の実態

コロナ禍で思う様に歌ったり演奏したりができていない子どもたちであるが、歌わせてみると頭声で正しい音程で歌える子が多い。楽譜に注目して、旋律の上行下行で曲の雰囲気が変わっていくことを味わい、楽曲に「色をつける」ことが楽しくなっているところである。また、筑波大学付属小学校の高倉先生の授業を受け、考える楽しさ、表現するおもしろさに気づき始めている。

「ゆかいに歩けば」は旋律のバリエーションが豊富であり、一人一人の考えの幅が広がると考えられる。自分のイメージを膨らませ、のびのびと表現できるようにしたい。

9. 本時の目標

- (1) 主旋律の特徴に合う歌い方を考える

10. 本時の展開 (3/4) 学習内容

	学習内容	教師の関わりと評価規準・具体の評価方法 ☆共通事項を知覚・感受するための手立て ※指導の留意点 △目標に達していない児童への支援 □具体の評価規準【 】評価方法
導入 (5分)	1. 音楽ゲームをする ・3時のおやつ ・おちゃらか 2. 前時の振り返りをする ・ゆかいに歩けばを歌う	※音楽の授業に入る雰囲気づくりをする。
展開 (35分)	3. 本時の学習課題を知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 「ゆかいに歩けば」の歌い方を考えよう </div> 4. ゆかいに歩けばの楽譜から読み取る ・記号に注目する(スタッカート) ・アの部分から気がついたことを発表する 明るい 元気な感じ スタッカートがついているからはずんでいる	※アの旋律とイの旋律を比べ、音符の長さ注目しながら弾む感じのところと滑らかな感じのところの違いを見つけるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> • イの部分から気がついたことを発表する。音が上がっている 音がつながっている • アとイの旋律の違いに気づく <p>5. どうやって歌うとよいか、みんなで考える</p> <ul style="list-style-type: none"> • 歌い方の根拠をはっきりさせる ○アのところは、スタッカートがついているから、元気に歌うといいと思う ○イのところは、だんだん音が上がっていくから、強くしていったほうがいい。 	<p>□曲を聴き取ったことと感じ取ったこととのかわりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている【発言の内容】 △周りの子たちと話し合う時間を取り、自分の考えを持てるようにする。</p> <p>※実際に歌ってみる。歌っている様子は動画、もしくは録音で残す。</p> <p>☆演奏を聴きながら曲に合っているかみんな考える。</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>6. 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学習を振り返り、感想や気付いたことを交流する。 	<p>※自分たちの考えた表現で歌う。 ※歌い方について感想を持つ。</p>

1 1. 評価

(1) 旋律の特徴を捉えて、歌い方を考えることができたか。

1 2. 板書計画

か 「ゆかいに歩けば」の歌い方を考えよう



石教研音楽部会 北広島 北の台小 大島先生

事後研による成果と課題

討議の柱

互いに学び合い、高め合う指導の工夫は適切であったか。

多様な学習活動として、タブレット等の活用は効果的であったか。

1. 授業者より

- ・アとイの旋律の違いに注目し、そこから歌い方を考えさせる展開にした。
- ・児童の1人がアのところは「歩いている感じ」イのところは「とまって歌っている感じ」と答えたことが曲想を考える一歩となった。
- ・楽譜にこだわる時間を入れて歌い方を考えた。子どもたちは、よくがんばっていた。
- ・子どもたちに考えさせていく歌唱の授業ができた。



2. 成果

- ① **自分たちで曲の特徴を捉え、歌い方を考えていくことができた。**
 ※楽譜には強弱記号などが何もない→自分たちで作っていこう。
- ・音符が上がっていく。
 - ・スタッカート、スラーの歌い方
 - ・音の高さの指摘
 - ・歩いている感じ、とまっている感じ、はきはきした感じ



② 録音を通して耳を育てることができた。

- ・教師のこだわりが大切→いい声、だめな声を明確にする。日頃からファルセットを身に付ける。4月から声を育てる。
- ・録音した歌声を聴かせて比べる。1回目ははぎれよく歌っていなかった。2回目は上手に歌えた。など、児童から感想が出た。
- ・スマホをスピーカーにつないですぐ聴かせる。子どもたちを待たせないで歌声を聴かせていた。(chromebookでやるのもよい。)

③ 音楽愛に包まれた巧みな授業であった。

- ・思ったことを素直に伝え合うことができる。
- ・ペア・全体で自由に言い合い、学び合っている。
- ・先生のポイントをしばった聞き方が素晴らしい。
- ・失敗から成功に導く指導の技術が見事。
- ・日頃の授業から地道に子どもたちを育み、高め合いを大切にしている。
- ・時間内に話し合い、子どもたちの思考を整理し、最後は通して歌うことができた。
- ・授業の時間配分がよかった。



2 課題

- ① 高倉先生の授業「とんび」と離れてしまった。つなげて授業を行った方が効果的だったのではないか。
- ② よいつぶやきがたくさんあった。子どものつぶやきからまとめていくことが大切ではないか。
 - ・スラーがあったのでなめらかにつなげて歌う。
 - ・音符の書き方が歌い方につながっている。(ほめてあげていい。)
- ③ 曲想にかかわる児童の発言を電子黒板に書き込めたらよい。(スクリーン)
※拡大してわかりやすくしてもよい。

